

氏名	上 田 稔
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 957 号
学位授与の日付	昭和53年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	交感神経作動薬の心筋内血流分布におよぼす影響 (交叉熱電対法による実験的研究)
論文審査委員	教授 佐伯清美 教授 木村郁郎 教授 大藤 眞

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

麻酔開胸犬をもちい、交感神経作動薬の心筋内血流分布におよぼす影響を、健常冠動脈領域と冠動脈狭窄領域とで比較検討した。心筋局所血流の測定は、交叉熱電対法により心筋の内層と外層との2ヶ所でおこなった。adrenaline (0.2  $\mu\text{g}/\text{kg}$ ) 投与では、健常群、冠動脈狭窄群とも心筋内血流分布は変化しなかった。noradrenaline (0.4  $\mu\text{g}/\text{kg}$ ) 投与では、健常群では心筋内血流分布は変化しなかったが、冠動脈狭窄群では内層血流の増加がほとんど認められず、血流分布は不均等となった。isoproterenol (0.2  $\mu\text{g}/\text{kg}$ ) 投与では、健常群、冠動脈狭窄群とも心筋内血流分布の不均等を生じた。methoxamine (0.1  $\text{mg}/\text{kg}$ ) の投与では、健常群では心筋内血流分布は変化しなかったが、冠動脈狭窄群では、心筋内層血流の増加する傾向が認められた。

以上の成績より心筋内層血流にとって、冠動脈灌流圧、心拍数、心収縮力が大きな影響を与えているものと考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は交叉熱電対法をもちいて、心筋局所血流を連続的に測定することにより、交感神経作動薬の心筋局所血流量に及ぼす影響を検討したものである。薬物の作用態度が健常冠動脈領域と冠動脈狭窄領域では異なることを明らかにし、狭心症ならびに心筋梗塞の発症における交感神経系の役割について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。